

共同研究

二〇一三年一〇月一日～二〇一四年三月三十一日

人文諸学の科学史的研究

〔研究代表者 井上章一、幹事 瀧井一博〕

〔共同研究員名〕

今谷明、上島享、上村敏文、鵜飼正樹、内田忠賢、長田俊樹、小澤実、小路田泰直、斎藤成也、佐藤雄基、関幸彦、高木博志、高谷知佳、竹村民郎、玉木俊明、鶴見太郎、永岡崇、林淳、シルヴィオ・ヴィータ、藤原貞朗、安田敏朗、若井敏明、荒木浩、伊東貴之、大塚英志、倉本一宏

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

二〇一三年一月九日

井上章一「日本のゲルマニストと関東史観」

荒木 浩「文学史の『鎌倉』時代」

二〇一三年一月一〇日

佐藤雄基「もう一つの日本列島史への想像力―鎌倉期の国家と地域」

関 幸彦「篡奪か委任か、中世史学史の足跡―京都と鎌倉」

〈第四回研究会〉

二〇一四年二月一五日

竹村民郎『天皇主義』サンディカリズムをめぐるって」

竹村民郎・井上章一「戦後近・現代史学をめぐるって」

〈第五回研究会〉

二〇一四年三月二八日

高谷知佳「比較都市論と時代区分」

宇野隆夫「考古学都市論の系譜と私の都市論―難しく考え

ることはない―」

井上章一「都市像の変容をめぐる」

日本庭園のあの世とこの世―自然、芸術、宗教

〔研究代表者 白幡洋三郎、幹事 榎本 渉〕

〔共同研究員名〕

小野健吉、グエン・テイ・ホアン・チャ、鈴木久男、多田
伊織、豊田裕章、原口志津子、原田信男、錦仁、飛田範
夫、日向進、町田香、水野杏紀、村井康彦、山田邦和、横
山正、吉澤健吉、荒木浩、外村中

〔海外共同研究員名〕

蔡敦達、陸留弟

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

共同研究シンポジウム『「大名庭園」の新発見』

二〇一三年一月八日

司会 榎本 渉

水野杏紀「スケジュール説明」

白幡洋三郎「趣旨説明」

近藤真佐夫「会津藩 御薬園と城下の庭園」

コメント 錦 仁

平出真宣「六義園における遊興と信仰」

コメント 多田伊織

佐藤豊三「大名庭園と尾張徳川家」

コメント 原田信男

近藤 壮「紀州藩の庭園・西園―その政治的機能―」

コメント 飛田範夫

伊藤康晴「因州鳥取藩の庭園・御茶屋・鴨堀―娯楽と饗応
のかたち―」

コメント 荒木 浩

二〇一三年一月九日

司会 榎本 渉

知念 理「広島藩・縮景園」

コメント 蔡 敦達

杉本 竜「松平定信と浴恩園―描かれた諸図を通して―」

コメント 山田邦和

永井 博「偕楽園―設立目的と景観―」

コメント 外村 中

小野健吉『「江戸図屏風」に描かれた庭園』

コメント 原口志津子

山田貴司「肥後細川家ゆかりの大名庭園・水前寺成趣園」

コメント 豊田裕章

御厨義道「栗林荘の成立と展開―大名庭園を考える視点」

コメント 水野杏紀

永松義博「長崎平戸藩主が残した用途多彩で特異な大名に

ついて」

コメント 小野健吉

二〇一三年一月一〇日

司会 榎本 渉

万城あき「岡山藩・岡山後楽園」

コメント 陸 留弟

日本の時空観の形成

〔研究代表者 吉川真司、幹事 倉本一宏〕

〔共同研究員名〕

井上直樹、今津勝紀、上島享、宇野隆夫、大津透、門井直哉、上川通夫、河上麻由子、神戸航介、佐藤早紀子、下垣仁志、武井紀子、武田和哉、西本昌弘、畑中彩子、林部均、古松崇志、細井浩志、本庄総子、横内裕人、荒木浩、榎本渉、劉曉峰、徳永誓子、堀井佳代子

〔海外共同研究員名〕

井上亘

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

二〇一三年一〇月一九日

河上麻由子「『梁職貢図とその世界観』―研究状況の紹介

と今後の課題―」

井上直樹「『高句麗勢力圏』と東アジア世界」

二〇一三年一〇月二〇日

下垣仁志「日本古代『国家形成期』の時空観」

今津勝紀「美作国の成立―古代における空間認識の復原的

研究（に向けて）―」

横内裕人「日本中世仏教の世界観―法隆寺蔵『五天竺図』

を手がかりに―」

〈第四回研究会〉

二〇一三年二月一四日

倉本一宏「撰関期古記録の時間軸について―特に『御堂関

白記』の執筆日時について―」

門井直哉「古代日本の方位観と国土観」

二〇一三年二月一五日

細井浩志「古代の時刻制度について」

佐藤早紀子「『天下』観と天下触穢」

畑中彩子「親王にとつての過去・未来―『吏部王記』重明

親王を事例に―」

神戸航介「熟国・亡国概念と撰関期の地方支配」

〈第五回研究会〉

二〇一四年二月一五日

劉 曉峰「比較文化視野の『本朝月令』研究」

林部 均「律令国家と畿内産土師器―土器からみた国家の

空間認識とその変遷―」

二〇一四年二月一六日

上島 享「日本中世における〈冥界〉観―顕界と冥界―」

榎本 渉「遣明船を守る神々」

古松崇志「一〇〇―一三世紀ユーラシア東方における天下

観」

〈第六回研究会〉

二〇一四年三月二二日

横内裕人「豆酩多久頭魂神社の中世史料」(多久頭魂神社

にて)

対馬南部の古代―中世遺跡(天道法師塔外) 見学

井上 亘「亀トの時空―神話と儀式の現在―」

二〇一四年三月二二日

坂上康俊「金田城跡調査研究の成果と課題」(金田城跡に

て)

金田城跡、対馬北部の古代―中世遺跡(黒瀬観音堂外) 見

学

二〇一四年三月二三日

細井浩志「対馬の亀ト資料」(対馬歴史民俗資料館にて)

亀ト関係資料、対外関係史料検討(対馬歴史民俗資料館に

て)

夢と表象―メディア・歴史・文化

(研究代表者 荒木 浩、幹事 マルクス・リュッターマ

ン)

〔共同研究員名〕

安東民兒、池田忍、入口敦志、上野勝之、鍛治恵、加藤悦

子、河東仁、笹生美貴子、仙海義之、高橋文治、立木宏

哉、玉田沙織、林千宏、平野多恵、福島恒徳、藤井由紀

子、松蘭斉、松本郁代、箕浦尚美、室城秀之、木村朗子、

伊東貴之、倉本一宏、早川聞多、榎本渉、郭南燕、中川真

弓、丹下暖子

〔海外共同研究員名〕

ヨーク・B・クヴェンツァー、アイヴ・コヴァチ、李育娟

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

二〇一三年一月三〇日

木村朗子「日本中世の夢と占い」

室城秀之「平安文学における死者の夢」

二〇一三年二月一日

中川真弓「慶政の見た夢」

加藤悦子「夢の表象？―夕顔あるいは瓜―」

〈第五回研究会〉

二〇一四年一月二五日

丹下暖子「中古・中世における女性の日記と夢」

李 育娟「医者 of 夢―『今昔物語集』「病成人形医師聞其

言治病語」小考―」

二〇一四年一月二六日

林 千宏「夢におけるイメージの崩壊―ジョアキム・

デュ・ベレー『夢』を巡って」

安東民兒「空也と夢中見仏をめぐって」

建築と権力の相関性とダイナミズムの研究

〔研究代表者〕 御厨 貴、幹事 井上章一

〔共同研究員名〕

五十嵐太郎、池内恵、小宮京、佐藤信、砂原庸介、手塚洋輔、中村武生、牧原出、松宮貴之、奈良岡聡智

〔海外共同研究員名〕

朴喜用

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

二〇一三年一〇月六日

手塚洋輔「合同庁舎の史的展開」

池内 恵「二〇二〇年東京五輪の国際建築史上の文脈―ア

ラブ系建築家ザハー・ハディードと政治権力」

〈第四回研究会〉

二〇一三年二月一日

佐藤 信「議事堂をめぐる政治」

中村武生「幕末期政治の主要人物、京都居所論―坂本龍馬

はなぜ河原町三条界限に住んだのか」

〈第五回研究会〉

二〇一四年二月八日

朴 喜用「帝国の権力と都市空間の変動」

奈良岡聰智「大使館建築論―イギリス、ベルギーの駐日大

使館を中心として」

〈第六回研究会〉

二〇一四年三月二二日

五十嵐太郎「建築家と政治家」

牧原 出「大磯吉田茂邸をめぐる権力と建築―政治家吉田

茂再考」

昭和四〇年代日本のポピュラー音楽の社会・文化的分析―

ザ・タイガースの研究

〔研究代表者 磯前順一、幹事 井上章一〕

〔共同研究員名〕

浅尾雅俊、飯田健一郎、小野善太郎、金谷幹夫、黒崎浩

行、永岡崇、中村俊夫、藤本憲正、松本清、水内勇太、倉

本一宏、細川周平、エリザベッタ・ポルク、光平有希

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

二〇一四年一月一八日

磯前順一・黒崎浩行・小野善太郎「タイガース共同研究会

の報告書 磯前・黒崎編」

中村俊夫「これまでの企画の成果について」

飯田健一郎「ザ・ファニーズ（タイガース）『青春の地』

探訪記―三つ子の魂、百まで―」

水内勇太「ファン投票データ作成にあたって」

〈第五回研究会〉

二〇一四年三月八日

飯田健一郎「ザ・タイガース（ファニーズ）青春の洛中洛

外物語」

水内勇太「ファン投票にみるザ・タイガース」

飯田健一郎「ザ・タイガースをめぐる京都歩き」

黒崎浩行・飯田健一郎・水内勇太「雑誌記事目録作成につ

いて」

光平有希「ザ・タイガースと平和思想」

安仲佳代「文献リスト（ポルク・浅尾）について」

柿田 肇「ザ・タイガース コスチューム関連資料につい

て」

近代日本における指導者像と指導者論

〔研究代表者 戸部良一、幹事 瀧井一博〕

〔共同研究員名〕

五百旗頭薫、猪木武徳、小川原正道、河野仁、黒澤文貴、佐古丞、佐藤卓己、庄司潤一郎、武田知己、中西寛、野中郁次郎、波多野澄雄、楠綾子、奈良岡聡智、牛村圭、松田利彦

〔海外共同研究員名〕

黄自進、フレデリック・デイキンソン

〔研究発表〕

〈第二回研究会〉

二〇一三年一〇月五日

戸部良一「報告書序章について」

二〇一三年一〇月六日

庄司潤一郎「自主性を貫く戦後の近衛文麿と『国体護持』

―『家柄』と政治指導―

河野 仁「現代の軍事リーダーシップ―ハイブリッド安全

保障とCOINドクトリン―

〈第三回研究会〉

二〇一四年一月二五日

奈良岡聡智「参戦外交再考―第一次世界大戦の勃発と加藤

高明外相のリーダーシップ―

フレデリック・デイキンソン「戦間期の世界における政治指導の課題―昭和天皇を中心に―」

二〇一四年一月二六日

佐藤卓己「管制高地に立つ編集者・吉野源三郎―平和運動における軍事的リーダーシップ―」

徳川社会と日本の近代化―一七〇―一九世紀における日本の文化状況と国際環境―

〔研究代表者 笠谷和比古、幹事 佐野真由子〕

〔共同研究員名〕

磯田道史、伊藤奈保子、岩下哲典、上村敏文、魚住孝至、大川真、加藤善朗、上垣外憲一、郡司健、小林龍彦、小林善帆、菅良樹、高橋博巳、武内恵美子、竹村英二、谷口昭、芳賀徹、長谷川成一、原道生、平井晶子、平木實、藤實久美子、前田勉、真栄平房昭、松山壽一、宮崎修多、宮田純、森田登代子、横谷一子、横山輝樹、米沢薫、脇田修、和田光俊、滝澤修身、辻垣晃一、伊東貴之、瀧井一博、フレデリック・クレインス、姜鶯燕

〔海外共同研究員名〕

平松隆円

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

二〇一三年一〇月二五日

森田登代子「『道の幸』から『諸国風俗問状答』へ―屋代

弘賢の軌跡―

谷口 昭「幕末の転封―一九世紀の国際環境のもとで―」

二〇一三年一〇月二六日

和田光俊「西洋天文学の受容と改暦―蘭書の導入をめぐる

て―」

原 道生「二百年余にわたる定期刊行物―役者評判記につ

いて―」

磯田道史「水戸藩天保改革の同時代的評価と影響―新史料

『水戸見聞録論』の分析―」

〈第五回研究会〉

二〇一三年一二月六日

平木 實「一七―一九世紀における日本の文化状況と国際

環境―

大川 真「新井白石による徳川政権の合法化論―」

二〇一三年一二月七日

武内恵美子「釈奠と楽―」

平井晶子「近世日本における家族観の変容―宗門人別改帳
の分析より―」

上村敏文「明治維新の宗教政策―水戸学、久米幹文を中心
に―」

〈第六回研究会〉

二〇一四年二月一四日

滝澤修己「日本人の先祖崇拜とキリシタン―」

高橋博巳「兼葭雅集図の行方―」

二〇一四年二月一五日

辻垣晃一「森幸安の地理認識―」

佐野真由子「幕末最終章の外交儀礼―徳川慶喜の外国公使

引見について―」

〈第七回研究会〉

二〇一四年三月二日

松平党史跡見学

討議「成果報告論集の作成について―」

二〇一四年三月三日

討議「成果報告論集の作成について―」

岡崎城、大樹寺見学

日本仏教の比較思想的研究

〔研究代表者〕 末木文美士、幹事 稲賀繁美)

〔共同研究員名〕

阿部仲麻呂、井上克人、沖永宣司、坂井祐円、坂本慎一、佐藤弘夫、島蘭進、ミシェル・ダルシエ、永井晋、中島隆博、西平直、西村玲、モリー・ヴァラー、シルヴィオ・ヴィータ、藤田正勝、前川健一、吉永進一、米田真理子、阿部泰郎、アントン・セベリア、高橋勝幸

〔海外共同研究員名〕

アンナ・アンドレーワ、鄭濠、許祐盛

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

二〇一三年一月九日

高橋勝幸 『『仏教とキリスト教の邂逅の道』キリシタン時代から続く対話の霊性を求めて』

坂井祐円 「慈悲はどこから起こってくるのか―曾我量深の法蔵菩薩論に寄せて―」

佐藤弘夫 「仏教の日本の変容と列島の神々」

〈第五回研究会〉

二〇一四年一月一日

鄭 濠 「日韓近世文学と仏教―西鶴『好色一代男』と西

浦『九雲夢』の作品世界を中心に―」

ミシェル・ダルシエ 「Place and Metaphysics NISHIDA

Kitarō's Response to SŌDA Kichirō, and Correspondence

with MUTAI Risaku」

許 祐盛 「後期西田の歴史哲学：哲学的転回 (The Philosophy

of History in the "Later" Nishida: A Philosophic Turn)」

〈第六回研究会〉

二〇一四年三月一日

アントン・セベリア 「空の倫理学―仏教と解釈学の間」

前川健一 「問答法の比較思想史：論議とスコラ哲学を手がかりとして」

ステイリアノス・パパレクサンドロポロス 「道元の一つの読み方」

二一世紀一〇年代日本文化の軌道修正：過去の検証と将来への提言

〔研究代表者〕 稲賀繁美、幹事 牛村 圭)

〔共同研究員名〕

テレングト・アイトル、鶴戸聡、大西宏志、小倉紀蔵、小

崎哲哉、鞍田崇、吳孟晋、近藤高弘、澤田敬司、全美星、
 戦曉梅、千葉慶、西田雅嗣、西原大輔、二村淳子、波嵯栄
 ジェニファしょう子、橋本順光、林洋子、範麗雅、平松秀
 樹、平芳幸浩、藤原貞朗、シルヴィー・プロッソー、クリ
 ストフ・マルケ、三原芳秋、本浜秀彦、山中由里子、山本
 麻友美、與那覇潤、マシュー・ラーキング、李建志、渡邊
 淳司、滝澤修身、張競、中村和恵、山田奨治、劉建輝、磯
 前順一、榎本渉、フレデリック・クレインス、森洋久、長
 門洋平、朴美貞

〔海外共同研究員名〕

大橋良介、デンニツァ・ガブラコヴァ

〔研究発表〕

〈第五回研究会〉

「商取引・藝術創作・海賊行為…社会制度の綻び目は文化
 創造のニッチとなるか?」

二〇一三年一月四日

稲賀繁美「趣旨説明」

小川さやか「非正規品交易システムにみるインフォーマル

経済のダイナミズム」

岡本光博「バッタもんについて」

山本麻友美「オリジナリティと継承—ストリート系ア
 ティストは、都市の海賊か」

二〇一三年一月五日

白石嘉治「〈半社会的〉とは何か? 気象学から平滑空間へ」
 孤田真介「P・L・ウィルソン著『海賊ユートピア』翻訳
 余話—海賊行為が切り開く現代的可能性」

万国博覧会と人間の歴史—アジアを中心に

(研究代表者 佐野真由子、幹事 井上章一)

〔共同研究員名〕

石川敦子、市川文彦、伊藤奈保子、鶴飼敦子、江原規由、
 川口幸也、神田孝治、寺本敬子、中牧弘允、芳賀徹、橋爪
 紳也、林洋子、武藤秀太郎、稲賀繁美、瀧井一博、ジ
 ョン・グリーン、劉建輝、シビル・ギルモンド、朴美貞

〔海外共同研究員名〕

青木信夫、岩田泰、ウィーベ・カウテルト、徐蘇斌

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

二〇一三年一月一日

重富公生「一八五一年ロンドン万国博覧会とイギリスの産

業界―『世界の工場』の諸相

江原規由「上海万博と中国の都市化」

二〇一三年一〇月二〇日

佐野真由子「万博の人、ラザフォード・オールコック」

寺本敬子「パリ万博と日本人―徳川昭武・前田正名」

石川敦子「資料から見えるランカイ屋の歴史」

〈第四回研究会〉

二〇一三年一二月二一日

市川文彦「万博でのテーマ設定と展示アプローチの変遷過

程―近代の諸事例」

森田登代子「巴里をめぐる人とモノ（慶応三〜明治六）」

林 洋子『『東宮御所（赤坂離宮）装飾と万国博覧会』の

ためのスケッチ」

二〇一三年一二月二二日

増山一成「幻の博覧都市計画―東京月島・日本万国博覧会」

青木信夫「博覧会と中国の都市空間の変容」

〈第五回研究会〉

二〇一四年二月二二日

鶴飼敦子「物質文化の展示とその影響―ナンシーの装幀作

品と金唐紙」

神田孝治「地域表象と博覧会―観光との関連性に注目した

考察」

朴 美貞「植民地朝鮮と『水産』博覧会―朝鮮水産共進会

を中心に」

二〇一四年二月二三日

橋爪紳也「電気が見世物であった時代」

澤田裕二「愛知万博前夜―博覧会を作った人々の葛藤」

植民地帝国日本における知と権力

〔研究代表者 松田利彦、幹事 瀧井一博〕

〔共同研究員名〕

飯島渉、小野容照、加藤聖文、加藤道也、川瀬貴也、河原

林直人、栗原純、慎蒼健、通堂あゆみ、春山明哲、洪宗

郁、松田吉郎、宮崎聖子、やまだあつし、吉川絢子、李昇

燁、中生勝美、稲賀繁美、劉建輝、朴暎美

〔海外共同研究員名〕

陳延媛、李炯植

〔研究発表〕

〈第二回研究会〉

松田利彦・陳延媛編『地域社会から見る帝国日本と植民地

—朝鮮・台湾・満州』書評会

二〇一三年一月二二日

李昇燁「第二章（地域社会団体）」

陳延媛「第一章（研究の現状）」

通堂あゆみ「第三章（宗教・慣習と社会教化）」

吉川絢子「第四章（慣習と法の「近代化」）」

松田利彦「志賀潔と植民地朝鮮」

〈第三回研究会〉

二〇一四年二月一日

中生勝美「書評『地域社会から見る帝国日本と植民地—

朝鮮・台湾・満州』第V部知識人・有力者・エリート」

加藤聖文「書評『地域社会から見る帝国日本と植民地—

朝鮮・台湾・満州』第VII部戦時体制下の地域社会」

顔杳如「『台湾趣味』の生成における知と権力—『台湾

歳時記』の知識体系と旧慣調査」

二〇一四年二月十五日

鄭駿永「京城帝国大学の『大陸』研究—學術研究調査の

政治性と植民地大学の使命」

吳叡人「植民地主義とナショナリズムとの共生と相克…

概念の地図の試み」

宗炳卷「鈴木武雄の戦前と戦後」

「心身／身心」と「環境」の哲学—東アジアの伝統的概念の
再検討とその普遍化の試み—

〔研究代表者 伊東貴之、幹事 榎本 渉〕

〔共同研究員名〕

青木隆、新井菜穂子、井上厚史、恩田裕正、垣内景子、片

岡龍、橋川智昭、権純哲、黒住眞、桑子敏雄、河野哲也、

小島毅、鈴木貞美、関智英、銭国紅、高橋博巳、竹村英

二、竹村民郎、田尻祐一郎、陳継東、陳健成、土田健次

郎、永富青地、西澤治彦、長谷部英一、林文孝、松下道

信、水口拓寿、横手裕、李梁、末木文美士、ジョン・ブ

リオン、劉建輝

〔海外共同研究員名〕

フレデリック・ジラルド、黄海玉、張翔、手島崇裕

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

二〇一三年一月九日

特別講演

大谷敏夫「清代思想史研究の動向」

コメント・対論 茂木敏夫・高柳信夫・林 文孝

〈第四回研究会〉

二〇一三年二月一四日

関 智英「日中道義問答―日米開戦後、『道義的生命力』を巡る和平派中国知識人の議論」

竹村民郎「安岡正篤の『天子論』とその周辺」

〈第五回研究会〉

二〇一四年一月二六日

井上厚史「明代心学と李退溪心学―朝鮮儒教の多様性と独

自性―」

権 純哲「朝鮮儒学再考・研究史批判から」

〈第六回研究会〉

二〇一四年三月八日

新井菜穂子「日本人の空気観くことばの視点から探る」

永富青地「陽明後学の日常―鄒守益の詩文より見たる―」

二〇一四年三月九日

横手 裕「道教と仏教における『本然の性』と『気質の性』」

日本の教育文化の複数地域展開に関する比較研究―ブラジル・フィリピン・ハワイ・アメリカの日系教育史を中心に―

(研究代表者 根川幸男、幹事 井上章一)

〔共同研究員名〕

浅野豊美、飯窪秀樹、伊志嶺安博、大浜郁子、カール呉、

小林茂子、坂口満宏、佐々木剛二、住田育法、高橋美樹、

中原ゆかり、中村茂生、西村大志、東悦子、松盛美紀子、

物部ひろみ、森本豊富、柳下宙子、吉田亮、細川周平、石

川肇

〔海外共同研究員名〕

小林ルイス・オタビオ眞登、野呂博子

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

「新大陸の日系移民の歴史と文化」「日本の教育文化の複数

地域展開に関する比較研究」合同研究会

二〇一三年一〇月二六日

細川周平「書評 水野真理子(富山大学)『日系アメリカ

人の文学活動の歴史の変遷』を読みながら―日本とブ

ラジルの日系移民文芸史の比較」

日比嘉高「書評 水野真理子(富山大学)『日系アメリカ

人の文学活動の歴史の変遷』を読みながら―日本とブラジルの日系移民文芸史の比較―

小林ルイス・オタビオ眞登「戦前ブラジル日本人同胞者会に見える剣道の教育的役割」

二〇一三年一〇月二七日

住田育法「戦間期ブラジルの移民・教育政策とナシヨナリズムの高揚」

スエヨシ・アナ「ペルーに帰国した生徒の進学とキャリア―母国に日系ペルー人の適応―」

〈第五回研究会〉

二〇一三年一二月二二日

松盛美紀子「在米日本人移民社会における『二世教育』の取り組み―南カリフォルニア地域を中心に―」

小林茂子「旧南洋群島収容所における教育とその後の影響―テニアン島チューロ収容所の事例を手がかりに―」

東悦子「北米・加州における日系子弟教育―『加州日本語学園協会沿革史』(一九三〇)から」

〈第六回研究会〉

細川班・根川班合同開催共同研究会「北南米大陸と帝国日本をめぐる日系人の教育と文化―複数地域の連動に注

目して―

二〇一四年三月一日

井上章一「開会の辞」

根川幸男「シンポジウムの趣旨説明」

セッシヨン1 オールラ・ヒストリーにみる「移民」と「植民」

司会 住田育法

森 幸一「沖繩系霊能者へユタ」の成巫過程とハイブリック

ドな呪的救済世界の創造」

佐々木剛二「土曜会と百周年―ブラジル日本移民の知識実

践をめぐる二つの契機―」

野呂博子「多文化カナダの『架け橋』たち―『日本語人』

のインターカルチュラルアイデンティティの形成」

セッシヨン2 移民民をめぐる文芸活動と表象

司会 早稲田みな子

高橋美樹「沖繩・日本本土・ブラジルを越境・還流する沖

繩音楽レコード」

中原ゆかり「一九三〇年代の日系大衆音楽と二世たち」

細川周平「増山朗『グワラニーの森の物語』覚書」

共同討論① 移民研究の現状と課題―オールラヒストリー

資料の保存・整理・活用を中心に―

司会 根川幸男

討論者 森本豊富・中村茂生・朝日祥之

二〇一四年三月二日

セッション3 移殖民政策と教育1

司会 伊志嶺安博

小林茂子「開戦前後におけるマニラ日本人学校にみる教育

活動の変容―発行された副読本と児童文集を手がかりに―」

石川 肇「教科書に見る移殖民表象」

大浜郁子「沖繩出身台湾教育経験者による台湾教育経験と

沖繩における『戦後』復興―台北師範学校が輩出した

『復帰』運動の担い手たち―」

セッション4 移殖民政策と教育2

浅野豊美「福島県原子力開発の古層―県人移民ネットワーク

クと最先端高等教育」

柳下宙子「戦前期外務省における移民担当局部署・構成員

からみた移民教育」

吉田 亮「日系キリスト教会の社会教育と満州」

共同討論② 移殖民研究の可能性と展望

司会 井上章一

討論者 浅野豊美・坂口満宏・根川幸男

マンガ・アニメで日本研究

〔研究代表者 山田奨治、幹事 荒木 浩〕

〔共同研究員名〕

飯倉義之、石田佐恵子、伊藤慎吾、伊藤遊、岩井茂樹、岡本健、金水敏、白石さや、山中千恵、山本冨里、油井清光、横濱雄二、吉村和真、谷川建司、北浦寛之、高馬京子、秦剛、小泉友則

〔研究発表〕

〈第三回研究会〉

二〇一三年二月二一日

作品検討 中沢啓治『はだしのゲン』（汐文社版）

吉村和真「はだしのゲンが伝えたかったこと―その表現と媒体から考える―」

伊藤 遊『『マンガ・アニメで日本研究』(『はだしのゲン』)

メモ

二〇一三年二月二二日

作品検討 中沢啓治『はだしのゲン』（汐文社版）

〈第四回研究会〉

二〇一四年三月十五日

作品検討 諫山創『進撃の巨人』

山中千恵「サブカルチャーが社会現象になるとき 韓国に

おける『進撃の巨人』を事例として」

山口冴里「『進撃の巨人』の『社会性』と、言語（日本語）

教育」

横濱雄二「『進撃の巨人』二学生の場合」

北浦寛之「『進撃の巨人』における『編集』と違和感」

二〇一四年三月一六日

スクリーニング、デイスカッション

上映作品『TVアニメ「ガールズ&パンツァー」(二〇一二)』

新大陸の日系移民の歴史と文化

(研究代表者 細川周平、幹事 瀧井一博)

〔共同研究員名〕

赤木妙子、アンジェロ・イシ、桑井輝子、栗山新也、小

嶋茂、佐々木剛二、スエヨシ・アナ、高木（北山）眞理

子、滝田祥子、竹村民郎、日比嘉高、松岡秀明、水野真

理子、フェリッペ・アウグスト・ソアレス・モッタ、物部

ひろみ、森本豊富、守屋貴嗣、守屋友江、柳田利夫、吉田

裕美、早稲田みな子、高橋勝幸、根川幸男、エドワード・マック、森幸一

〔研究発表〕

〈第四回研究会〉

「日本の教育文化の複数地域展開に関する比較研究」「新大陸の日系移民の歴史と文化」合同研究会

二〇一三年一〇月二六日

細川周平「書評 水野真理子（富山大学）『日系アメリカ

人の文学活動の歴史の変遷』を読みながら―日本とプ

ラジルの日系移民文芸史の比較」

日比嘉高「書評 水野真理子（富山大学）『日系アメリカ

人の文学活動の歴史の変遷』を読みながら―日本とプ

ラジルの日系移民文芸史の比較」

小林リス・オタビオ眞登「戦前ブラジル日本人同胞者会

に見える剣道の教育的役割」

二〇一三年一〇月二七日

住田育法「戦間期ブラジルの移民・教育政策とナショナルリ

ズムの高揚」

スエヨシ・アナ「ペルーに帰国した生徒の進学とキャリア

―母国に日系ペルー人の適応―」

〈第五回研究会〉

細川班・根川班合同開催共同研究会「北南米大陸と帝国日

本をめぐる日系人の教育と文化―復教地域の連動に注

目して―」

二〇一四年三月一日

井上章一「開会の辞」

根川幸男「シンポジウムの趣旨説明」

セッション1 オーラル・ヒストリーにみる「移民」と「植民」

司会 住田育法

森 幸一「沖繩系霊能者へユタ」の成巫過程とハイブリッ

ドな唯的救済世界の創造」

佐々木剛二「土曜会と百周年―ブラジル日本移民の知識実

践をめぐる二つの契機―」

野呂博子「多文化カナダの『架け橋』たち―『日本語人』

のインターカルチュラルアイデンティティの形成」

セッション2 移住民をめぐる文芸活動と表象

司会 早稲田みな子

高橋美樹「沖繩・日本本土・ブラジルを越境・還流する沖

繩音楽レコード」

中原ゆかり「一九三〇年代の日系大衆音楽と二世たち」

細川周平「増山朗『グワラニーの森の物語』覚書」

共同討論① 移住民研究の現状と課題―オーラルヒストリー

資料の保存・整理・活用を中心に―

司会 根川幸男

討論者 森本豊富・中村茂生・朝日祥之

二〇一四年三月二日

セッション3 移住民政策と教育1

司会 伊志嶺安博

小林茂子「開戦前後におけるマニラ日本人学校にみる教育

活動の変容―発行された副読本と児童文集を手がかり

に―」

石川 肇「教科書に見る移住民表象」

大浜郁子「沖繩出身台湾教育経験者による台湾教育経験と

沖繩における『戦後』復興―台北師範学校が輩出した

『復帰』運動の担い手たち―」

セッション4 移住民政策と教育2

浅野豊美「福島県原子力開発の古層―県人移民ネットワー

クと最先端高等教育」

柳下宙子「戦前期外務省における移民担当局部署・構成員

からみた移民教育」

吉田 亮「日系キリスト教会の社会教育と満州」
 共同討論② 移植民研究の可能性と展望

司会 井上章一
 討論者 浅野豊美・坂口満宏・根川幸男

日記の総合的研究の総括

〔研究代表者 倉本一宏、幹事 榎本 渉〕
 〔共同研究員名〕

有富純也、板倉則衣、井原今朝男、今谷明、磐下徹、上島
 享、上野勝之、小倉慈司、尾上陽介、加藤友康、久富木原
 玲、古藤真平、近藤好和、佐藤信、佐藤全敏、下郡剛、末
 松剛、曾我良成、中村康夫、名和修、西村さとみ、カレ
 ル・フィアラ、藤本孝一、古瀬奈津子、松蘭斉、三橋順
 子、三橋正、森公章、山下克明、吉川真司、中町美香子、
 荒木浩、井上章一、劉曉峰、堀井佳代子

〔研究発表〕

〈第二回研究会〉

二〇一三年一〇月一九日

丸山裕美子「撰関・院政期の病と医療」

〈第三回研究会〉

二〇一四年二月一五日
 今西祐一郎「仮名日記と日付」

基礎領域研究

古文書研究（継続）

代表者 笠谷和比古

概要 前近代の草書文字で記された古文書や日記・記録な
 どの読解を行う。

近世風俗未公刊資料解読（継続）

代表者 早川聞多

概要 センター所蔵の近世風俗資料の解読および変体仮名
 の読解演習を行う。

フランス語運用の基礎／応用（継続）

代表者 稲賀繁美

概要 フランス語の運用の基礎を実践的に訓練し、あわせ
 て必要に応じて論文講読、仏文論文作成の手ほどきをする。

韓国語運用の基礎／応用（継続）

代表者 松田利彦